

日本労働年鑑 特集版 太平洋戦争下の労働運動

The Labour Year Book of Japan special ed.

第七編 国際労働運動

第三章 第一回世界労働組合会議

第二節 「戦力の増進」

第一議題である「連合国の戦力の増進」については、ソ連の代表ワシリイ・クズネツォフが最初に演説し、ソ連軍をはじめとする連合国軍があげた戦果と組織労働者が軍需生産に果たした貢献、解放された諸国の労働者階級が反ファシズム闘争にあたえた援助についてのべるとともに、軍事的勝利ののちにおいてもナチスに残された唯一の望みは連合国の陣列の分裂であることを指摘して、つぎのように強調した。「これらの敵の計画を実現させてはならない。連合諸国は、戦争が勝利をもって終結し、安定した恒久平和の樹立に必要な友誼を一層強化するだろう。自由を愛する諸国民のこの一致を強化する最重要の要因は、労働者階級の全国的、国際的統一である。労働組合統一の問題は、今日とくに緊急かつ痛切である。」

この演説は熱狂的支持をえた。ついで英、米、中国、ベルギー、仏、加、インドの各代表が発言したが、アメリカCIOの代表リード・ロビンソンもまた「連合諸国の一致は、労働組合が、新たな、広い、効果的な組織によってすべて連合したときにはじめて適当な支持をうる。こうした組織が機能しているときには、ファシストたちの最後の不正な希望がうちたかれるだろう……」とのべたように、多くの発言者は労働組合の国際的統一の必要を強調した。

この議題をめぐる宣言が採択されたが、それは次のような問題にふれている。

一、われわれの当面の任務はヨーロッパの戦争と対日戦争をできる限り早く終結させるために、敵をうちたおすことである。

二、世界労組会議は連合諸国の英雄的労働者の偉業に敬意を表するとともに、勝利が近づいたいま、軍需生産と動員のための努力を一層強めることを要請する。

三、労働者の十分な動員はその経済的要求の擁護と不可分であるから、労働組合は、賃金水準の確立、維持、差別待遇の廃止、住宅と社会保障、食料品の適正配給、団体協約、労働者保護立法の確立、維持のために闘わなければならない。

四、解放された諸国では言論・出版・集会・宗教・政治結社の自由ならびに労働組合の権利が即時確立され、人民に支持された政府がうちたてられることを要求する。

五、連合諸国政府はフランコ・スペイン、アルゼンチンその他のファシスト諸国との関係を再考すべきである。

六、連合諸国の一致団結が勝利の基礎である。この一致を弱めようとする国内勢力と断固たる闘争をおこなうことを誓う。連合国の結束の、最も確実な保障は、連合諸国の労働者の一致である。この一致の強化により、できる限り早期に勝利をもたらすとともに、恒久平和を樹立するために、行動しなければならない。

日本労働年鑑 特集版 太平洋戦争下の労働運動

発行 1965年10月30日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 労働旬報社

2000年2月22日公開開始

■ ←前のページ 日本労働年鑑 特集版 太平洋戦争下の労働運動【目次】 次のページ→ ■
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)
